

苫小牧東部地域の優位性等

項 目	内 容	
A . 自然条件	位 置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北方圏・アジア太平洋地域の交流結節点 ・ 都市機能・産業機能が集積する道央圏に位置
	気 象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏期は梅雨がなく、冬期は雪が少ない ・ 真冬の最低平均気温は約 - 4 度、真夏の最高気温も 30 度を越えることが少なく快適 ・ 地域内に自然氷が生成 ・ 北海道の暖房コストは、本州の冷房コストと比較しても安価
	地 勢・ 地 質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標高 2 ~ 5 m の低平地と、20 ~ 30m の台地に区分 ・ 第四紀沖積層と洪積層 ・ 地中に帯水層を有する

項 目	内 容	
B . 交通・ 輸送条件	空 港	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要都市と結ぶ 2 4 時間空港「新千歳空港」まで約 15 分 ・ 国内 27 都市と日 120 便（うち東京 51 便、大阪 16 便） ・ 海外はソウル、グアム、香港、瀋陽、ユジノサハリンスク、上海、台北線が就航（ケアンズ線については 16 年 11 月運行再開） ・ 滑走路延長(3,000m 3,500m)が計画されている <p>参考：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苫東立地企業の多くが人流のみならず、物流（産業機械の部品等）で新千歳空港を利用しており、利便性に対し高い評価（15 年度アンケート・ヒアリング調査より） ・ 多くの在京企業が空港との近接性を評価（2003 苫東セミナー in 東京アンケート結果より）
	港 湾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際コンテナ船・内航フェリーが就航する西港まで約 1 0 分 ・ 北米、東南アジアをはじめ外貿コンテナ 8 航路が就航 ・ 東京、大阪、横浜をはじめ内貿コンテナ 5 航路が就航 ・ 大洗、名古屋、敦賀をはじめフェリー 7 航路が就航（うち 2 航路が東港区を利用） ・ 東京、敦賀、名古屋をはじめ RORO 船 10 航路が就航 ・ 苫小牧港が総合静脈物流拠点港に指定(14 年 5 月) ・ 東港区に多目的国際ターミナル供用開始予定（17 年春） ・ 西港区と東港区で災害時の代替港として相互に補完し、リダンタンシーを確保することが可能 ・ コンテナ輸送に利点（基幹航路上で最も北米に近い、広大なコンテナヤードの確保が可能、空コン蔵置コストが安い、冷涼な気候のためリーファー(冷却コンテナ)コストが安い） <p>参考：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苫東立地企業の多くが東港区を活用しており、多目的国際ターミナルの供用により、ポテンシャルの高まりが指摘されている。また、物流関連産業(牛乳等を本州へ輸送)の新規立地もなされている。(15 年度アンケート・ヒアリング調査より)

道 路	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格道路により札幌まで約 60 分 ・苫東地域内に 3 カ所の I C が供用中 ・地域内に国道 235 号が通過しているほか、36 号、234 号とも近接 ・東港と高規格道路 I C を直結する臨港道路が供用中 ・新千歳空港と直結する道道静川美沢線が 16 年度中供用開始予定 ・苫小牧市内より札幌市まで高速バスで約 60 分
鉄 道	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての列車が停車する J R 苫小牧駅まで約 20 分 ・札幌貨物ターミナルのサブ基地としてコンテナホームが供用中 ・東京まで最速 19 時間のコンテナ輸送が運行中

項 目	内 容	
C . 産 業 インフラ	用 途 区 域	<ul style="list-style-type: none"> ・工業専用地域(9,245ha：建ぺい率 60%、容積率 200%) ・工業地域(臨空柏原地区。659ha：建ぺい率 60%、容積率 200%)
	用 地	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺と隔離された広大な用地の確保が容易(区画面積最大 1,000ha) ・余裕をもった自由なレイアウトが可能 ・広大な用地を(株)苫東一社で保有(取得期間が短い) ・オプション契約を結ぶことにより、将来の拡張が容易 ・基盤整備が完了している利用可能用地が 113ha ・(株)苫東では、既造成地は即時引渡し可能(分筆が必要な場合は 2 週間程度必要。未造成地では注文造成が必要となるため所用の期間が必要(例:45ha であれば 1 年程度))
	用 水	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富(約 23,000 m³/日)で低廉(20 円/m³)な工水が提供可能 全国平均 27.6 円/m³(14 年。野村総合研究所調べ) ・臨空柏原地区の上水は、厚生省「おいしい水研究会」から水道水のおいしい水として全国の 32 都市の一つに選定された、苫小牧市から供給
	電 力	<ul style="list-style-type: none"> ・苫東厚真火力発電所から、安定した電力を供給(当地域内の 2 箇所の変電所から特別高圧電力(30,000V、60,000V)、高圧電力(6,600V)とも安定供給) ・電力各社の平均単価(電灯電力合計)を比較すると北海道は全国 2 位の低料金(14 年 10 月)
	天 然 ガ ス	<ul style="list-style-type: none"> ・勇払ガス田は 1 日平均約 72.4 万 m³(天然ガス処理能力 240 万 m³/日)の天然ガスを生産しており、柏原地区ではパイプラインが敷設されているため、地域内のバルブステーションを通じた容易な利用が可能(一社当たり最大 45 万 m³/日程度は供給可能) ・勇払 LNG(液化天然ガス)プラント竣工。1 日の LNG 製造能力は 150 トン、貯蔵能力は 1000 トン ・クリーンエネルギーとしても企業も利用開始(苫小牧西部、千歳臨空団地) ・サハリン 天然ガスのパイプライン敷設予定ルートと想定されている
	緑 地	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな緑を活用し自然と共生する環境づくりが可能 ・工業立地法の団地特例による立地企業の緑地確保軽減(敷地面積の 20%以上 なし。ただし、苫小牧市が 10%の緑地確保を要請)
	通 信	<ul style="list-style-type: none"> ・臨空柏原地区の(株)苫東周辺まで光ケーブルを敷設済み

項 目		内 容
D . 技術・人材	産 業 集 積	<ul style="list-style-type: none"> ・全道一の工業都市（製造品出荷額 約6,190億円(15年)） <small>全国では65位の水準(平成14年 野村総合研究所調べ)</small> < 苫東地域 > 85社(者)（うち操業53社(者)） ・自動車、エネルギー・物流関連企業ほか一般機械、金属、鉄鋼、プラスチック、産廃処理業等 < その他苫小牧地域 > 約400社(13年) ・紙・パルプ、石精、自動車、電気機械、一般機械、鉄鋼、化学、食料品、リサイクル関連等多様な業種が操業中
	学 術 ・ 研 究 集 積	<ul style="list-style-type: none"> < 苫東地域 > ・公施設は、苫小牧市テクノセンター、(財)道央産業技術振興機構、(独)北海道開発土木研究所苫小牧寒地試験道路等 ・民間研究施設は、(株)ダイナックスR&Dセンター(材料研究)、北電石炭灰研究施設(石炭灰研究)等 ・地域産業、経済に精通した地域コーディネータを苫小牧地域に配置((財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)) < 苫東周辺地域 > ・大学は、北大(大学院工学研究科・工学部(12学科)ほか14研究科・11学部)、室蘭工大(昼夜計9学科)ほか、千歳科学技術大学(2学科)、苫小牧高専(5学科)等の理工系大学・高専が集積 公施設は、(独)北海道開発土木研究所、(独)産業技術総合研究所北海道センター、北海道立工業試験場等が集積 ・農業・バイオ、工学分野が強い

人材・労働力

- ・大卒就職者（約 12,000 人）及び高専卒就職者（約 500 人）のうち約 3 割が道外に就職（16 年）
- ・高度技術者等の U・I ターンを促進するため、北海道 I J U（移住）情報センターに「就職相談コーナー」、札幌人材銀行内に「人材誘致コーナー」を設け、相談業務・情報提供実施。
（求職登録者数：765 名、求人企業登録数：248 社、就職決定者数：1,800 名（平成 16 年 10 月末現在））
- ・17 年 3 月新規高等学校卒業生求人倍率等（9 月末）

	求職者数	求人数（うち道内）	求人倍率（道内）
苫小牧管内	713 人	394 人(269 人)	0.55 倍(0.38)
北海道	10,992 人	6,645 人(4,870 人)	0.60 倍(0.44)
愛知県(8 月末)	11,051 人	17,789 人	1.60 倍

苫小牧管内：苫小牧市、白老、早来、追分、厚真、鶴川、穂別、日高、平取、門別の各町

- ・有効求人倍率、失業率（9 月）

	有効求人倍率	失業率
苫小牧管内	0.61 倍	-
北海道	0.58 倍	5.3%
全 国	0.84 倍	4.6%
(参考) 愛知県	1.43 倍	3.7%

北海道の失業率は 16 年度第 2 四半期、愛知県の失業率は第 1 四半期のデータ。

- ・有効求人倍率の推移

	2 年	7 年	12 年	15 年
北海道	0.65 倍	0.54	0.46	0.49
全 国	1.40	0.63	0.59	0.64
(参考) 愛知県	2.47	0.68	0.74	0.96

15 年に 0.48 倍以下なのは 5 県(青森、沖縄、高知、秋田、鹿児島)のみ

- ・労働コスト（現金給与総額。15 年）

	調査産業計	製造業
北海道	315,393 円 / 月	269,377 円
全国	389,664 円	410,817 円
(参考) 愛知県	420,685 円	467,519 円

30 人以上の事業所の数値

項 目	内 容	
E . 地域資源	石炭灰	・苫東厚真火力発電所から年間 35 万 m ³ の石炭灰が発生
	廃 熱	・苫東厚真火力発電所（北電）、廃プラスチック発電所（サニックスエナジー）等から廃熱が発生。サニックスエナジーは蒸気取り出し設備を有する
	天 然 ガス (再掲)	・勇払ガス田は 1 日平均約 72.4 万 m ³ （天然ガス処理能力 240 万 m ³ /日）の天然ガスを生産しており、柏原地区ではパイプラインが敷設されているため容易に利用が可能
	バ イ オ マ ス 資 源	・勇払、日高地域には、エタノール等バイオマスエネルギーとして活用可能な豊富なバイオマス資源が賦存 森林蓄積量：55,208 千 m ³ 周辺地域 主要農産物収穫量（15 年度） 米：26,082 t、麦：6,919 t、トウモロコシ：103,506 t 周辺地域：勇払郡・沙流郡・静内郡・三石郡・新冠郡（概ね胆振東部及び日高中・西部）

リサイクル資源	・道央圏 341 万人による、家電(年 47 万台)や自動車(年 16 万台)等のリサイクル資源が発生 数字は推計。
観光資源	・ノーザンホースパーク、つた森山林に加え、ウトナイ湖(ラムサール条約登録湿地)周辺などの自然が多い ・周辺には、ウトナイ湖や支笏洞爺国立公園、サラブレッドで有名な日高等の観光資源

項 目	内 容
F . 居 住 ・ 生活環境	
住 宅	・苫小牧市は、道営市営あわせて 8,708 戸の良質な公営住宅を提供しているほか、民間企業による住宅地開発が活発に行われており良質な戸建て住宅が低価格(関東圏の約 1/2 ~ 1/3)で取得可能 ・また、周辺自治体(千歳市、早来町、厚真町)でも公営住宅を約 3,000 戸提供 ・苫東地域に隣接する早来町遠浅地区において、町により宅地分譲が行われている
医 療	・市内には 16 診療科目、約 400 床を備える市立総合病院や同規模の王子総合病院をはじめ、夜間急病診療部門を持つ、保健センター等、約 200 にも及ぶ医療施設が集積 ・道央圏には大学病院等も多数立地
教 育	・苫小牧市内には、苫小牧駒沢大学、苫小牧高専、苫小牧高等技術専門学院等の高等教育機関のほか、高等学校 7 校、小中学校 37 校、幼稚園 21 園(公立・私立含む)が立地 ・千歳市内には、千歳科学技術大学をはじめ高等学校 2 校、小中学校 28 校、幼稚園 10 園があるほか、技術系の専門学校として日本航空専門学校千歳校がある。 ・道央圏には北大をはじめ、数多くの大学・短大・各種学校が集積
文 化	・市内には、生涯教育や文化活動の拠点として、1,800 人収容できる市民会館をはじめ、文化会館、市民生活センター、文化交流センターのほか、図書館、博物館、科学センター等、多様な施設が整備 ・道都札幌市には、道立近代美術館をはじめ多様な施設が整備
商 業	・苫小牧駅を中心に、大型百貨店やスーパー等が立地しているほか、中心部には住宅地を背景とする地域商店街が集積し、景観を考慮したシンボルストリートも形成 ・苫東地域から車で 10 分程度の苫小牧市明野地区において、道内最大規模(81,000 m ²)となるイオン苫小牧ショッピングセンター(仮称)の建設が進められている(17 年 3 月完成予定) ・千歳市も千歳ポスフルをはじめとして商業施設が充実。また、苫東地域に近接する JR 南千歳駅隣接地に道内最大級(90 店舗)のアウトレットモール「レラ」が建設中(17 年 5 月オープン予定) ・札幌市には大手百貨店、ショッピングセンター等が多数立地
ス ポ ー ツ	・苫小牧市はスケートの街として有名で、市内には官民あわせ 5 つのスケートリンクがあるほか、昭和 41 年のスポーツ都市宣言を契機に野球、水泳、テニス等、多様なスポーツに対応できる施設が整備
レ ジ ャ ー (一部再掲)	・苫小牧市及び周辺地域では支笏洞爺国立公園を背景に、自然と一体化したゴルフ場、オートキャンプ場、ウトナイバードサンクチュアリー、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター等の多様なレジャー施設が整備 ・ゴルフ場の利用料金が安価(関東圏の 1/2 程度)

項 目	内 容	
G. 機能・施設の誘導に関するインセンティブ	個別優遇施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道企業誘致促進条例に基づく助成（北海道）」、「苫小牧東部地域産業立地奨励事業費補助金（北海道）」、「苫小牧市企業立地振興条例に基づく条例（苫小牧市）」など多様な優遇施策の活用が可能 ・「企業立地に対する融資（日本政策投資銀行）」の活用が可能
	アフターケア	<ul style="list-style-type: none"> ・（株）苫東では、立地企業からの相談・苦情があった場合、迅速に必要な助言等を行っている ・苫東立地企業懇話会で会員相互の情報交換を実施（年４回）するほか、ゴルフ大会、工場見学会、家族レクリエーション（ハスカップ狩り）などを開催
	関連施策	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道経済産業局では「北海道スーパークラスター振興戦略」をスタートし、道内の広範な産業の競争力強化に大きく寄与することが期待される情報技術（IT）、バイオテクノロジー及びそれらの融合分野への支援を戦略的に推進。

項 目	内 容	
H. 北海道・道央圏との連携	産学連携（一部再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺には、北大や室蘭工大、千歳科学技術大学、苫小牧高専などとの産学連携を進めやすい環境
	人口集積	<ul style="list-style-type: none"> ・道央圏には約 340 万人の人口集積があり、大きな市場を形成している
	産業集積	<ul style="list-style-type: none"> ・道央圏には製造業から情報サービスまで、多様な産業集積 ・情報系では、わが国有数の集積（サッポロバレー）が形成されている
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光入り込み客数は道内で年間 1 億 4 千万人、道央で 7 千 6 百万人、苫小牧市で 140 万人 ・アジアからの日本観光の行き先希望第一位は北海道である ・大自然、雪という自然観光資源が豊富であり、飲食、レジャー、買い物等の潜在需要が大きい
	農畜産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の農地面積は全国の約 25%、食料自給率は 181%と、食料の安定供給が可能 ・胆振支庁管内でも、米や馬鈴薯、メロンなどが高評価

項 目	内 容	
I. 位置付け	国家的プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・開発計画を国（国土交通省北海道局）が策定。港湾、幹線道路など必要な基盤を重点的に整備 ・国、地元自治体が連携して開発を推進 ・長期的なスパンで開発を推進